

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：笹間自治会

開催場所：石上公民館

開催日時：平成 28 年 9 月 28 日（水）18 時 56 分～20 時 55 分

参加者：自治会側【地域住民の方 31 人】

市側【染谷市長、鈴木議会事務局長、三浦秘書課長、秋山協働推進課長、畑中川根地域総合課係長】

内 容

① 種本自治会長あいさつ

- ・本日は、市長の車座トークという画期的な取り組みについて笹間自治会に市長にお越しいただきありがたいと思っている。
- ・市長には敬老会にも先日お越しいただいた。
- ・その話の中で、おびサポ、交流拠点、川根地域への誘客、稼ぐ力について説明をいただいた。特に光ファイバー通信については地域住民が期待しているところ。
- ・後ほど、市長からも話があると思うが、忌憚のない意見をいただければと思う。

② 市長からの市政報告

■はじめに

- ・この車座トークは、市内全ての 68 自治会をまわるということ実施している。最初の 2 年間は「語る会」ということで呼んでいただいたところに伺っていたが、呼んでいただけない自治会もあり、全部隈なくまわるという事は難しかった。
- ・また、今年と来年の 2 年をかけて次の総合計画（H30～37）の策定作業を行っているが、この他にも、国土利用計画島田市計画や中心市街地活性化基本計画、公共施設再配置計画等などの策定もしていくことから、各地域の課題や特色、さらにはどのような取り組みをしているのかをこの目で、この耳で確認して、それを市政に反映したいということでまわっている。
- ・これからの行政は、行政に頼っておけば何とかかなるという時代ではない。
- ・地域の課題を、地域で行政と一緒に解決していくことが必要で、それにいち早く気が付いた自治体（地域）が選ばれるまちになる。
- ・動く地域と動かない地域では差が出てくる。そこにどんな人材がいて動いていくことによって地域の住み良さ、高齢者の見守り、子育てに差が出てくる。

■自治会長のご挨拶を受けて

- ・9月の補正予算に、この北部地域への光ファイバー網の整備費として1億8,000万円を計上している。予算（債務負担行為）が認められれば29年度の事業実施となる。（情報格差、情報を得る段階での容量の格差の是正は若い方々に住んでもらうためには大事なことだと考えている。）
- ・クラウドソーシングを地元の方にもやっていただくこともできるし、若い方の移住に向けての武器にもなる。
- ・長島ダムまでは国土交通省が光ファイバーを敷設しているが、そのケーブルの利用について国土交通省から了解を得られなかったので市で整備する。
- ・市内の世帯数37,600世帯のうち3,000世帯に光ファイバーを整備することが目標だが、100%になるかは分からない。数%残るかもしれない。
- ・国道473号と新東名が交差するところに「にぎわい交流拠点」をつくる計画。これは、島田市が中心となって、JA大井川、NEXCO中日本、大井川鐵道の4者が連携してにぎわい交流拠点を造っていこうということ。
- ・マルシェは日本一の規模の売り場面積としていきたい。
- ・この取り組みは、金谷地域だけの話ではなくて、大井川流域の奥から売れる農産物をそこに持って行って、6次産業化したものを売ることができるかということも考えている。（大鐵の新駅の構想もある。）
- ・平成30年の5月には着工をしていきたいと考えている。
- ・新東名高速道路島田金谷IC周辺の84haを内陸フロンティアとして指定した。牛尾山も含め、全てを工業団地にしていくことは難しいが、今、農振除外の除外に懸命であるが、目途が立ってきており（大井川土地改良区の受益地は外すことができた。）、進出したい企業とのマッチングの話し合いも行ってきている。

■笹間自治会の人口、世帯について

- ・笹間自治会の8月31日現在の世帯数は180世帯、人口は399人で、高齢者人口は233人、高齢化率は53.4%となっている。敬老会に伺って思ったことは、男性の方が元気で多くの方が出席してくれた。健康で長生きの方が多い地域といえる。健康長寿ということは生涯現役ということになるので、笹間地域の将来は皆さんの手にかかっているといても過言ではない。15歳以下の人口は18人で人口に占める割合は4.5%となっている。市の平均は13.8%なので少子化が進んでいる。高齢化率の市平均の29.4%である。

■川根地域への市の取り組みについて

- ・市長になってから、ホテルは指定管理者（プロのサービスの提供）に加え、川根小学校の建設と市立図書館を併設した。
- ・私が考える、これからの川根地域にけるまちづくり像は、ハードの整備だけではなくて、この地域に地域外から来たお客様や若者が滞留、交流できる仕組みをつくっていくことが必要。
- ・パラグライダーの基地の増設がそのひとつの取り組みである。整備された際にはタンデム飛行をして自ら施設を発信していきたい。

- ・あわせて、川根地域で、お金が回る仕組みをつくっていききたい。もし、川根地域の皆さんで運営母体をつくってくれるのなら、鵜山森林公園のキャンプ場整備も可能ではないかと思っている。地元皆さんが運営してくれれば、雇用も生まれるし、地域資源を活用して、ここに人を呼び寄せる仕組みをつくっていききたい。釣りの指導やテントの張り方の指導、しいたけ狩りへの随行など健康な方々に運営に携わっていただきたい。
- ・運営母体を地元で調整してくれれば、11月補正で市も対応する。冬場でないと木を切ることができない。(キャンプ場にするには木を切らないとならない。)
- ・抜里駅のトイレを整備する。大鐵の土地ではあるが再建中ということ considering 市の方で整備する。
- ・川根温泉のメタンガスの利活用について、当初予算で約1億8,000万円を計上して発電施設を整備する。メタンガスが温泉水とともにでていますがこれを活用するもの。小規模な鉱山開発なら許可(鉱山法)が下りるようになったために実現する事業。川根温泉ホテルの年間電力使用量の6割を賄える。5、6年で投資額を回収できるのではないかと想定している。熱源は川根町温泉で活用する。全国でも例を見ない事業である。地球の温暖化にも寄与する事業である。
- ・島田市は前電力使用量の約3割を再生可能エネルギーで賄っている。県内一である。
- ・移住・定住施策にも力を入れている。東京に出張するたびに島田市のPRをしているが、この四半期では移住、移住定住者数では県内で2番目。社会動態はプラスになっている。
- ・移住していただいた世帯で高齢者の方は1世帯だけで、現役のサラリーマン世帯もいる。
- ・奥座敷である川根地域が観光や交流で活性化できることに取り組んでいきたいので皆さんのお力添えをいただきたい。
- ・今までは量的に発展することが可能であったと思うが、これからの時代は、日本中どこにいても(量的な発展は)ないと思う。
- ・以前は、乱開発などを抑制するため、行政は法律に基づき規制をしてきたが、これからは、都市の拡大等が見込めない中、いかに今までの資源を生かしていくかという視点にたった行政運営が必要なことから、規制緩和して民間の参入を促していくという発想に転換してきている。
- ・行政は必要なパブリック・スペースの整備や整備・開発のコーディネートはするが、その他は民間の活力を大いに活かしていきたい。(主な投資は民間から出してもらう。)

■行政(政治)の役割が変わってきていることについて

- ・行政も職員の数も減っている中で、業務量は増えている。高齢者の見守りなどについては行政だけでは限界がある。それぞれの地域がそれぞれの課題を解決していく取り組みが必要。
- ・地域の助け合いの事例として、ある地域では、ごみ出し券などを活用して生活支援のサービスを行っていく計画がある。サービスを提供した人は、たとえば500円でも収入になる。(道悦島の事例)
- ・放課後児童クラブに取り組んでいる地域もある。初倉南小学校の放課後児童クラブに地元のご協力で送迎をしてくれている。そのための経費(ガソリン

代等)については、市から支援している。(湯日の事例)

- ・買い物や通院ができない、いわゆる交通弱者対策として、車をボランティアで走らせている地域もある。
- ・防災や高齢者の食事の宅配など地域の課題にあった解決策を地域の皆さんで考えてほしい。
- ・笹間地域は、国際陶芸フェスティバルの開催など地域が一体となって取り組んできた地域であるので、地域課題のために行政も一緒になって考えていくので行政に声を掛けてほしい。(協働推進課が窓口になる。)
- ・これからのまちづくりは、少子高齢化に伴い高齢者が増えて、2040年には島田市でも高齢化率が4割を超えるのではないかと推計されている中で、働く人の割合は5割程度になってしまう。生産年齢人口が減ることによって、税金を納める人も減っていく中で、今までとは違うまちづくりのあり方を考えなければならない。
- ・新しいものを造る時代ではなく、今ある施設を長寿命化していかに長く使っていくかという時代となっている。コンパクトな拠点を作ってネットワークでつないでいく時代になっている。
- ・国土交通省の予算も新しいものを造る予算と長寿命化する予算は6：4であるが、今後5：5になると思う。
- ・10数年前に比べると国土交通省の補助金は3分の1、県では7割カットとなっている。(道路整備などの補助金)
- ・このように、行政の仕組みも地域の役割も大きく変わってきている。
- ・駿遠橋の耐震性と通行が円滑になり、児童の通学等の安心・安全が確保できた。
- ・人口減少は悪いことばかりではなく、ゆったりと暮らすこともできるし、生産性が維持できればひとりあたりのGNPも増えることになる。
- ・そのために国は、一億総活躍社会といって若い人も高齢者も元気なうちは働いてくださいという施策を行っている。
- ・それでもなお、経済などが好転しない、人材不足となれば、海外から労働者を受け入れていくという方策を考えている。

■事前質問への回答について

質問	回答
<p>■旧笹間中学校の利活用について</p> <p>市の方針は？取り壊すのか。修繕して（雨漏りなど）利活用するのか。</p>	<p>●旧笹間中学校は、現在、国際陶芸フェスティバルの会場として利用されている以外は貸出しを行っていない。</p> <p>現在あの土地は普通財産として管理している。行政財産は行政目的に活用する資産。</p> <p>今後の利活用については、関係各課や地元との協議を重ねながら決定していきたいと思うが、人の出入りの機会が増えればトイレや水道の復旧、雨漏り箇所の改修のほか、消防設備や警備システムの設置などを行う必要が生じ、これらの整備には相当の費用がかかることが予想される。</p> <p>そうした場合には、目的がはっきりしていなければならない。</p> <p>民間が活用するのであれば、地域の発展や公共の福祉に資する目的の活用であれば、賃料を減額するなどの措置は考えられると思う。</p> <p>現状の管理を継続していくことが今の方針である。</p> <p>この地域に来て、心に沁みている言葉は、学校がなくなったら、子供の声やチャイムなど、学校の音がなくなってしまったといわれた言葉。学校がなくなるということはこういうことかということを感じた。</p> <p>杉山さんがこの笹間地域の森林を保護するために2億円の寄附をしていただいた。このお金にも限りがある中、今後の見通しも立てながら考えていかなければならない。</p>
<p>■笹間川の水質検査について</p> <p>笹間川の源流域は川根本町にあり、以前、産業廃棄物の不法投棄などもあり、定期的な水質検査が行われているのか。</p> <p>また、その結果は？</p>	<p>●市では平成20年から笹間川の水質調査を実施している。採水場所は桑之山橋付近で年に4回の調査となっている。</p> <p>調査結果については、調査項目の中で代表的な水質の指標となるBOD（生物化学的酸素要求量）については0.5mg/1未満であり、この数値は笹間川がたいへんきれいな河川であることを示している。</p> <p>今後も自然環境保全のために継続して実施していきたいと考えている。</p>

■新病院の建設について

- ・今年基本設計をつくっている。年度末までには概ねの施設の状況や精度の高い金額をお示しできると思う。
- ・造る場所は、今の病院の東側の駐車場の場所で、道を付け替えたりする。あの土地だと三角形の建物になってしまうのではないかとされるかもしれないが、今のところはT字型のような形になる予定としている。使いやすい形にしていきたい。
- ・現在の計画では、床面積は35,000㎡、7～8階建て、屋上にはヘリポートを設置して、ドクターヘリの患者に対する医療行為を効率的に行えるようにしていきたい。
- ・建設費等については、医療機器に約50億円、医療機器を含む総事業費約247億円を見込んでいる。
- ・2025年に団塊の世代が全て後期高齢者となる年にあわせて、国では、医療制度改革で医療費の抑制を図っていく方針。毎年、国の医療費は1兆円ずつ増えていることに対する医療費の抑制が目的)
- ・施設から在宅へという流れ。入院日数も今より短くする方針となっている。(医療費抑制のための国の施策で市民病院だと平均14日くらいの入院日数を9日くらいに短縮するもの。)
- ・入院日数の短縮などもその対象で、救急病院(患者さん7人に対して看護師1人を配置するという基準を満たす。)として島田の市民病院は運営をしていくことから診療報酬等の関係から、急性期の病院としていくために療養病床の廃止を決めた。
- ・退院後の患者さんが次に行く先については、市民病院が面倒を見ていく。また、現在療養病床に入っている方は今までどおり療養病床で診ていく。
- ・市では4月から24時間訪問看護ステーションに取り組んでいる。8人の医療行為の出来るナースを配置している。もし、夜中に具合が悪くなくても、かかりつけの医師の指示書があれば、ナースが指示書に従って医療行為ができるというもの。安心して在宅で医療が受けられる。
- ・国民健康保険税は、島田市は近隣自治体よりも安いですが、県で国民健康保険を運営をしていく方針が出されている。医療費が増える要因は、例えば、高額な薬が出てきていることによる。C型肝炎の薬は一錠8万円で、3ヶ月服用しなければならず、3ヶ月で720万円掛かるが、国民健康保険があるから、個人負担は月2万円しかかからない。オプジーボという肺がんの薬が新薬の認証を受け、1年間服薬する必要があるが、1年間で3,500万円の薬代が掛かることになる。しかし、これも個人負担は月2万円しかかからない。
- ・皆さんが元気で、楽しく過ごせる政策を、地域で安心して暮らせる施策、例えば、ホームヘルパーの派遣、元気アップ教室など介護予防の事業に力を入れている。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■コミュニティバスの回数券について</p> <p>子供が学校以外のところで乗る場合には運賃をとると思うが、コミュニティバスは別荘のところまで100円、そこから奥は150円。回数券を支所にいって50円券ありますかといったら、100円券しかないといわれた。50円券をつくってほしい。つくれないのであれば、運賃を100円にしてほしい。</p>	<p>●この地域の運賃が100円だと思っていたので、川根支所に確認をして回答する。【検討事項1】</p>
2	<p>■市との契約に際する職員の対応について</p> <p>ヘリポートの土地と簡水の土地を市に提供しており、毎年契約をしているが、紙切れ一枚だけに署名してくれと言うだけ。今年もお願いしますとなんで言えないのか？人間として必要なことだと思う。</p>	<p>●市は都市経営をする会社。顧客は市民。私たちの仕事の先に市民の顔が見えなくてはいけない。お客様に対して使う言葉は丁寧かつ心のこもったものでなければならない。必ず職員に指導して接遇を変えていく。申し訳ありません。市長として毎朝、私は庁舎で「おはようございます。」といって先頭にたって「心のこもった挨拶」を実践している。</p>
3	<p>■外之沢の調査について</p> <p>笹間川が大雨時には水量があがるが、長年の勘でどの程度の雨で危険かは分かっている。</p> <p>外之沢は砂防指定されている。2箇所ダムがあるが、今年の春に調査にきたが調査の内容が分からなかった。その内容を聞きたい。</p>	<p>●市も早めに避難勧告なども出すようにしているが、地元の方々が、笹間川の水量などによって、地元で判断して避難をしていただくことは大事なことである。危ないと思ったら、勧告が出ていなくても避難してほしい。</p> <p>砂防指定地の調査が市の職員だったのか県の職員だったのかわからないが、市は全市域のハザードマップを出している。水害、崖などの2種類。各戸配布しているし、支所やインターネットでも見て確認することができる。</p> <p>今見直しをしているのは、ハザードマップは100年に一度起こりうる想定で作成されているが、県は1,000年に一度のハザードマップをつくるということとしている。24時間で780mmの雨が降るという想定。県の示すハザードマップの公開を待って、島田市も更新をしていく。</p> <p>1,000年のマップを作るよりは100年のマップを使いこなすことの方が大事だと思うが……。調査の結果は、ハザードマップに反映をしているので、ハザードマップを確認してほしい。【検討事項2】</p>

4-1	<p>■市のお金のかけ方について</p> <p>お金がないから民間にやらせるとするのは一般的な話。</p> <p>みんなで助け合ってやると言うことは聞こえはいいが、24 時間訪問看護ステーションも在宅で養生できるのは理想だが、そういうところを削っていくしかないのではないか。お金がなければ削っていくしかないとは思いますが、島田市としてどこにお金をかけていくのか？</p>	<p>●お金がないからやらないのではない。起債をすればやれることはある。</p> <p>しかし、借金をすれば、すなわち将来に負担を残すことは、次世代の若者がやりたいことができなくなる。(投資することに投資できなくなる。)</p> <p>右肩上がりの時代は、次世代の者がその借金を返せることができたが、こういう時代になっては、将来の子供たち孫たちがそれを負担していくことになる。自分たちが生きている間のことは、自分たちでお金が回るようにしていかなければならんという基本方針は持っている。</p> <p>このため、選択と集中によって、年金弱い立場にいる人たちや病気になっても医療に受診できる、教育を受けられる、子供を預けて働きに出られる、そういった安心して暮らせることを守ることが行政のベースにあると考えている。</p> <p>安心して暮らせることを守る施策を行っていくためには、一方で稼ぐ施策も必要。このため、稼ぐ力を、にぎわい交流拠点や内陸フロンティアによる企業誘致、地元企業の支援（おびサポ）として相談業務をはじめている。おびサポは、年間の想定相談件数（1,200 件）を4か月足らずで上回っている。起業創業支援の補助や専門家と繋げることによって雇用の創出を図っていく。旧金中跡地を活用した稼ぐ施策も考えている。</p> <p>行政の役割と雇用の創出を両輪としてやっていくことがベースの考え方。お金は賢く使うことが必要である。</p>
4-2	<p>■税収が減るのはしょうがないが、稼ぐ力にお金をかけていくと聞こえるが。右肩上がりではない時代に産業にお金を掛けていくことのように聞こえるが。</p>	<p>●政治の役割は、全ての人々が安心して暮らせることで、そこにはお金を使っていく。一方、企業誘致は、民間が進出しやすいようにすることを推進しているのであって、そこにお金をつぎ込んで何かをやろうというものではない。民間の力を入れて税収を増やしていくという考え方。</p> <p>若い人たちに住んでもらうには、住まいと働く場所がないとまらない。</p> <p>それに付随して子育て施策を充実させて、若い人に住んでもらって、持続可能な都市としていくまちをつくっていききたい。</p>

5-1	<p>■市民病院の療養病床の廃止について</p> <p>療養病床がなくなることに伴い、他の（療養）病院に斡旋してくれると聞いたが、昔は在宅療養が当たり前だったが、在宅療養が難しい時代にあって、市の方では今以上にどのような支援をしてくれるのか？</p>	<p>●在宅での介護サービスはあるが、現制度では日中独居では使えないという矛盾がある。これは大きな課題であるが、島田市では新総合事業ということで、介護になりにくくするための様々な取り組みをしているが、国は介護や教育でも「地域の力を活かせ」といつている。</p> <p>しかしながら、高齢者の一人暮らしや在宅療養の方への地域の力を活かす制度ができていないのが現実。</p> <p>孤独死等の事例が出てくると地域でもどうにかしなければいけないと考えるのではないか。在宅だけでは限界があると言う話は十分に認識している。そういう中で、元気アップ教室やヘルパーの派遣などの事業を行ったり、地域では生活支援サービスに取り組むなどの事例も出てきている。</p> <p>まちづくり支援事業交付金などの活用や居場所づくり事業への支援など市でも地域での取り組みにはバックアップしていく。</p> <p>500人の方（高齢者の一人暮らし）が登録しているが、一週間に一回の見守り（電話をかけてつながらない場合には30分以内にそのお宅に駆けつけることや困りごとの相談など）の事業にも取り組んでおり、きめ細やかに在宅で安心して暮らせる施策を実施している。</p> <p>余談ではあるが、県営住宅では孤独死した場合にはお金を出せば葬儀までやるという話が出ている。今までの行政では考えられない時代となった。</p>
5-2	<p>■健康でありたい気持ちはあるし、笹間は健康長寿の村ではあるが、人口減少、高齢化に伴い、高齢者が集う居場所が笹間にもあっていいのではないか？</p>	<p>●私の方がむしろお願いしたい件である。居場所づくりを開設する費用については行政で支援できる。保健師の派遣やバリアフリーのお手伝いはできるが、高齢者を見守りする人をお願いしたり送り迎えをしてくれるなど地域の力は必要。市内でもすでに居場所づくりに取り組んでいる地域がある。（30か所近くある。）</p>
5-3	<p>■ボランティアで高齢者の居場所づくりのような取り組みは笹間でもやっているが、事故等があった場合を懸念して、送り迎えはしないという決まりにしている。交流センターのバスを出してもらっているが、山の方はバスが入れない。そういう高齢者こそを呼びたいがそれができない</p>	<p>●本人は来るということが基本ではあるが、他の地域では、送迎をいただいているという話も聞くことはある。交流センターが車を出していただけることはありがたい。ずっと家にいる高齢者の方がいることも承知をしている中で、行く先をつくってあげたいと言う気持ちはある。そういう</p>

	<p>いのは残念。</p> <p>居場所の場所として旧笹間中学校の活用を考えるが、規模が大きすぎると思う。家山の方に元気教室にも通っている人もいるが、地元でやりたい。家山まで15km、とこは(特養)まで20kmある。自分がそこまで運ばれるのはいやだ。地元でそういう施設があればと思う。</p> <p>旧笹間中学校をグループホームという話もあったが、立ち消えになった。川根本町では小規模多機能などを多数開設している。市長の力で民間に声を掛けて、そうした福祉施設の開設につながればと思っている。</p> <p>校庭も広く、ヤギを飼う、ドックランなど若い人との交流する場になればと思う。</p>	<p>中で石上公民館が使えないかと思う。</p> <p>中学校の校庭の件は、資源回収のストックヤードとしての話もあるが、財政課としては、外の倉庫を活用できないかという考えがある中で、具体的な内容については、今後町内会の皆さんと立会いをして決めていきたいということである。</p>
5-4	<p>■高日向はバスが入っていけない。迎えに来てくれればとその地域の方にも言われている。小さいバスでも交流センターがあればと思うが。</p>	<p>●交流センターにおいて高齢者の「ふれあい」「居場所」のとりくみはやっていただいている？つきに何回位か？</p> <p>(交流センター館長) 2ヶ月に1回くらい。</p>
6-1	<p>■保育園への送迎について</p> <p>今朝の新聞に結婚支援事業の記事が載っていた。素晴らしい事業だと思う。</p> <p>笹間は高齢者も多いが若い人も大事。子育てについてだが孫を送り迎えしている。</p> <p>平成29年度には(保育園)が民営化になる。ますますお金がかかると家族で話をしている。また、民営化になるとバスは出すが応分の負担があり、笹間は距離があるので負担は大きくなるのではと不安である。</p> <p>子育てについては難しい地域であると思うが市の方針はあるのか？</p>	<p>●平成29年度から川根保育園は五和会に運営を委ねるが、土地を無償貸与、建物を無償譲渡していく。保育園は市内全域、親御さんが送り迎えすることが原則。幼稚園では通園バスがある。</p> <p>民間になると保育料が高くなることへの御心配は、保育料は親の所得によって決まるので、公民の運営母体に伴う保育料の増減はない。</p> <p>民営化については多くの御意見をいただいた中で、その意見を運営の参考にしていくが、五和会は保育理念を持って運営しているので評判が良い。</p> <p>この4月から放課後児童クラブを地区センターに開設した。2、3人の利用者である。(希望者は40、50人いた。)児童館は無料で夕方まで遊べるということで利用していただいているが、児童クラブは基本7,000円をいただいている。ただし6時30分まで預かっている。おやつや勉強、他の児童とのふれあいなど児童の見守りも含めて実施している。(家の代わりとなるところでしっかりと預かっている。)児童館は早く終わるだろうし、遊ぶ場であると考えている。是非、放課後児童クラブを活用してほしい。</p>

6-2	<p>■この地域は送迎するのが大変。20km あるので。何か策があればと思う。全く無理なのか。</p>	<p>●保育園に限って言うならば、働くお母さんが通勤の際に送迎ということになる。</p>
7	<p>■地域の住民アンケートについて</p> <p>この車座トークの開催にあたり、地域住民に関心のある事項についてアンケート調査を行った。(回収率は約4割)</p> <p>その内容は、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 孤立化が避けられない地域特性を踏まえた防災対策 2. 鳥獣害対策 3. 道路、水路等の生活基盤の整備 4. 旧笹間中学校の利用 5. 恵まれた自然を活かす仕組みづくり 6. 移住・定住施策 <p>この内容について、市長のご見解をお願いしたい。</p>	<p>●</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 孤立化が避けられない地域特性を踏まえた防災対策 <p>危機管理監が自衛隊出身であり、地域の避難計画、防災計画を策定する支援をしている。細かな指導をしているので、個別の地区防災計画の策定を支援するので危機管理課に連絡してほしい。</p> 2. 鳥獣害対策 <p>猟期(11月～2月)以外に獲れたイノシシ等に対しては、1頭当たり17,000円の補助金を交付している。電気柵の設置には5万円交付している。</p> <p>獣肉の加工施設については、年間500頭くらいのイノシシが獲れるが、獲れたものの10分の1くらいしか加工肉として活用できないので採算は合わない。この件については、県がやるべき施策である。イノシシ等の移動範囲を考慮すると広域的な取り組みが必要である。</p> 3. 道路、水路等の生活基盤の整備 <p>道路の新設は難しい状況の中で、狭いところを拡幅する工事や土砂崩れを防止する工事を優先的に実施し、長寿命化にもあわせて取り組んでいる。</p> <p>また、県、国への要望活動も実施している。</p> 4. 旧笹間中学校の利用 <p>中学校は先ほども申し上げたとおり、地元のために活用できるようになれば良いが、費用対効果も考慮すると計画には至っていない。</p> 5. 恵まれた自然を活かす仕組みづくり <p>国際陶芸フェスティバルに訪れた外国人が、ここには日本の原風景があるといってくれたこと、正月よりも人がいるといった地元の方が言われた言葉が印象に残っている。世界が認める地域であるから、この良さを生かしていきたい。</p>

		<p>6. 移住・定住施策</p> <p>移住・定住については、120万円を限度に補助金を出している。</p> <p>空き家バンクは川根地域で実施しており、借主、貸主のマッチングをしている。川根地域は多くの方に移住していただいている、特に家山地区、笹間渡が多い。</p> <p>教育長もここに来ると地元の人が声を掛けてくれることに対して、笹間地域は心の暖かい方々であると言っている。シェリーさん（笹間に移住した外国人）はここに住んで何にも不便はないと言っている。</p> <p>外から来た人の目と住んでいる人の視点は違うのかもしれないが、若い方の移住については必要なことであるので様々な施策を講じているところである。</p>
8	<p>■中山間地域の役割と支所のあり方について</p> <p>笹間は人口が400人弱であると言われた。</p> <p>面積は島田市域の約の2分の1（川根地域全体で）。</p> <p>治山、治水、環境保全は、この地域だけの話ではなく、市民全体に関わることであり、この地域の役割は大きい。</p> <p>このことから、中山間地の振興を全市民のためをお願いしたい。</p> <p>地域の力を発揮することは当然のことではあるが、行政の役割はお金だけではない。職員の知恵やノウハウなどは大きな資源であると考えていることから、その知恵などを十分に発揮してもらうことが大事であると考えている。川根支所でいえば、お金も権限のない中では職員の気力も低下する。是非、支所に権限の付与、財源配分をお願いしたい。</p> <p>この地域の取り組みも一つ一つ芽が出てきているところであるので、そういう目を地域でも外に出して（PR）行くので、市でも情報収集をして応援をしてほしいと思う。</p>	<p>●治山、治水、環境保全は全市民のためとの御指摘はもちろんのことである。中山間地に住む人がいなくなれば、下流に住む人の安全が脅かされる。</p> <p>中山間地に住む人がいるから、自然が保全され、災害の歯止めにもつながっている。このため、この地域が大事であるという認識は十分に持っている。</p> <p>情報の発信すること、職員の知恵やノウハウを活かすという点については、職員は島田のエンジンだと思っている。</p> <p>川根地域も有能な職員がいるのでその配置も含めて考えていく。</p> <p>支所への予算と権限ということについては、以前、検討した。その権限や予算の執行に誰が責任を持つのかというところで迷いがあって、自由に使えるようにすることこそ難しい。事業別の予算を組んでいることから、川根地域には人口割からすれば予算はある程度つけている。</p> <p>川根の魅力と地域資源を活かしたまちづくりをしなければいけない。また、この人材を活かしていく必要がある。自分たちのことは自分たちでやらなければならないという気持ちも皆さんお持ちである。</p> <p>青年団もあるし、婦人会は一時期は1,000人を超える会員がいた。その</p>

		<p>人材、組織力は他にはない。この地域資源と人材を活かすことによって、やれることはいっぱいある。街中は高齢化しているのに動き出せない状況にある。この地域の振興を皆さんとともに進めていきたいと考えている。</p>
9	<p>■最後に自治会長から</p> <p>市長のお話を伺って、歯切れ良く、さくさくとわかりやすくご説明いただき、ずっと心の中に入ってくる。</p> <p>笹間を把握していただいて、ここの地域を見てくれているということに改めて感じた。我々は、公共施設が次々となくなって、辛い時期もあったが、交流センターの運営から国際陶芸フェスティバルの開催などに地域をあげて取り組んでいる。</p> <p>また、老人会、まめったい会等様々な組織で活躍している。</p> <p>次の世代に豊かな自然とこの笹間を残していくということで頑張っている。笹間は空き家対策では前を走っていると思う。11人が移住してくれており、この方々のためにも光ファイバーは1軒残らず実施してほしい。島田市民である以上は、同じ恩恵を受ける必要はあると思う。</p> <p>奥地だからこそ必要なインフラである。</p>	<p>●自治会長の言葉を受けて市長から</p> <p>光ファイバーの整備は協議会を立ち上げて、公平にやっていく必要がある。1軒でも多くと思っている。</p> <p>2020年の東京オリンピックに向けて、国では文化交流事業ということで、外国からのお客様に対して、日本の文化交流事業を募集している。島田はこの国際陶芸フェスティバルを事業として手を挙げている。県内でも挙げているところは少ないので、国の方に認めていただければ、2020年の東京オリンピックの文化交流というプログラムの中にこの国際陶芸フェスティバルが入るかもしれない。そういった取り組みもさせていただいている。</p>

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子



⑤検討事項に対する対応（報告）

質疑応答番号 検討事項番号	検討内容（市長の発言）	市からの回答（対応状況）
1 検討事項 1	<p>●この地域の運賃が 100 円だと思っていたので、川根支所に確認をして回答する。【検討事項 1】</p>	<p>■現在、川根支所で販売中の回数券は、しずてつジャストラインの所有するものでありますので、回数券が使用できるバス路線は、しずてつジャストラインに運行委託している路線に限定されております。そのため、大変申し訳ありませんが、ご要望のありました笹間渡笹間線または笹間線での回数券の使用はできませんので、現金でのお支払いをお願いしております。</p> <p>平成 28 年 4 月からの運賃改正で他地区運賃との整合性を確保するため、川根地区においても小中学生が通学以外でバスを利用する場合は、半額の運賃をいただくようになりました。以前より、65 歳以上の方には 50 円を現金でお支払いしていただいておりますので、ご不便をお掛けしますが、この点について御理解いただき、現金でのお支払いについて、御協力をお願いいたします。</p>
3 検討事項 2	<p>●市も早めに避難勧告なども出すようにしているが、地元の方々が、笹間川の水量などによって、地元で判断して避難をしていただくことは大事なことである。危ないと思ったら、勧告が出ていなくても避難してほしい。</p> <p>砂防指定地の調査が市の職員だったのか県の職員だったのかわからないが、市は全市域のハザードマップを出している。水害、崖などの 2 種類。</p> <p>各戸配布しているし、支所やインターネットでも見て確認することができる。</p> <p>今見直しをしているのは、ハザードマップは 100 年に一度起こりうる想定で作成されているが、県は 1,000 年に一度のハザードマップをつくるということとしている。24 時間で 780mm の雨が降ると</p>	<p>■砂防指定地は、砂防法（明治 30 年 3 月 30 日法律第 29 号）第 2 条に基づき、治水上砂防のための砂防設備を要する土地または一定の行為を禁止し若しくは制限すべき土地として、国土交通大臣が指定した一定の土地の区域です。</p> <p>外之沢は昭和 50 年に砂防指定地に指定されています。</p> <p>また、外之沢は土石流危険区域として平成 21 年に静岡県が告示しています。</p> <p>なお、砂防指定地の管理は、砂防法第 5 条に基づき、都道府県知事が実施することとされており、管理に関する規定は、都道府県の条例等により定められています。</p> <p>御質問の調査の内容ですが、静岡県島田土木事務所に確認したところ、外之沢において今年の春頃に調査は行っていないとのこと</p>

	<p>いう想定。県の示すハザードマップの公開を待って、島田市も更新をしていく。</p> <p>1,000年のマップを作るよりは100年のマップを使いこなすことの方が大事だと思うが…。調査の結果は、ハザードマップに反映をしているので、ハザードマップを確認してほしい。【検討事項2】</p>	<p>した。</p> <p>なお、市では道路と橋の長寿命化と維持管理の点検のため、全ての道路及び橋の点検を実施しておりますが、今年の5月に外之沢付近の橋の点検を行っており、その際に調査員が外之沢付近にお邪魔した経緯がございます。</p>
--	---	--